正誤表

EBMビジランス研究所(濱六郎所長、現**医薬ビジランス研究所**)と医薬品・治療研究会(別府宏圀代表)による2002年1月31日付け**薬害オンプズパースン会議宛「う歯予防を目的とした水道水へのフッ素添加の有効性と危険性に関する文献的調査研究報告書」の一部に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。**

2.

表 1-5 2 年間 (6 ヵ月) 発癌性試験動物のフッ素 (F) 摂取量 (mg/kg/日) 推定値

動物	雌	i 水のフッ素濃度(ppm)								
	雄	0	(10)	25	(30)	(50)	100	175 (200)	(300)	(600)
ラット	雄	0.2		0.8	(0.9)		2.5	4.1	(7.2)	
	雌	0.2		0.8	(1.0)		2.7	4.5	(7.6)	
平	均	0.2	(0.4)	0.8	(0.9)		2.6	4.3 (5.0	(7.4)	
マウス	雄	0.6		1.7		(2.5)	4.9	8.1 (9.2)	(13.5)	(26.3)
	雌	0.6		1.9		(3.2)	5.7	9.1 (10.3)	(15.2)	(29.7)
平	均	0.6	(1.1)	1.8		(2.0)	5.3	8.6 (9.9)	(14.5)	(28.0)

上記の数字中、太字部分を以下に訂正します。

表 1-5 2 年間 (6 ヵ月) 発癌性試験動物のフッ素 (F) 摂取量 (mg/kg/日) 推定値

動物	雌	水のフッ素濃度(ppm)								
	雄	0	(10)	25	(30)	(50)	100	175 (200)	(300) (600)	
ラット	雄	0.2		0.8	(0.9)		2.5	4.1	(7.2)	
	雌	0.2		0.8	(1.0)		2.7	4.5	(7.6)	
Σ	平均	0.2	(0.4)	8.0	(1.0)		2.6	4.3 (5.0) (7.4)	
マウス	雄	0.6		1.7		(2.5)	4.9	8.1 (9.2)	(13.5) (26.3)	
	雌	0.6		1.9		(3.2)	5.7	9.1 (10.3)	(15.2) (29.7)	
<u> </u>	平均	0.6	(1.1)	1.8		(2.9)	5.3	8.6 (9.8)	(14.4) (28.0))

3.

表 8-4 ダウン症の比率 (アメリカ、イリノイ州、出生 10 万対) (5000 人~1万人の町:1950.1.1~1956.12.31)

				フッ素濃度 0~0.2 群
	フッ素濃度	ダワ	ウン症患者	に対するオッズ比
出生数	(mg/L)	人数	率(10 万対)	(95%信頼区間)
25,248	0.0-0.2	10	39.60	1
24,364	0.3-2.6	19	77.98	1.97(0.92- 4.24)
	2 = 11.53		p < 0 . 0 0 1	EBMピジランス研究所で追加したもの

上記表8-4中、脚注部分を以下のように訂正します。

表8-4 ダウン症の比率(アメリカ、イリノイ州、出生10万対)

(5000 人~1万人の町:1950.1.1~1956.12.31)

			フッ素濃度 0~0.2 群				
	フッ素濃度	ダウ	ン症患者	に対するオッズ比			
出生数	(mg/L)	人数	率(10 万対)	(95%信頼区間)			
25,248	0.0-0.2	10	39.60	1			
24,364	0.3-2.6	19	77.98	1.97(0.92- 4.24)			
	2 = 3.12	0.	05 < p < 0.1	医薬ビジランス研究所で追加したもの			

なお、「EBMビジランス研究所」は、現在、「**医薬ビジランス研究所**」と改称しておりますので、お知らせ申し上げます。

また、この報告書の内容のうち、がんとの関連に関する疫学調査結果のデータ (Hoover 論文データ)をより詳細に検討し直し、全体の文章量を約4分の1の長さに要約したものを、医薬品・治療研究会が発行する医師薬剤向け情報誌、「正しい治療と薬の情報」(TIP誌) 2002年8/9月合併号に掲載しました。また、さらに要約した内容を「薬のチェックは命のチェック」No8(10月20日発売予定)に掲載しました。どちらも全文を近日中に、NPOJIP「医薬ビジランスセンター」のホームページ http://npojip.org に掲載します。あわせてご覧ください。

2002年10月11日

医薬ビジランス研究所 所長 濱 六郎